

図解：度重なる侵攻と抵抗、アフガニスタンの歴史

民族の対立、衝突、他国による侵攻への抵抗を繰り返した道のり

2021.09.02

米軍が主導する連合軍がアフガニスタンでタリバンによる政権を崩壊させてから 20 年。世界が注目するなか、この過激な勢力は電光石火の攻勢で支配地を拡大し、再び実権を掌握した。ただし、アフガニスタンは約 3 世紀にも及ぶ抗争の歴史がある。タリバンの復権はその中の一コマに過ぎない。雑誌ナショナル ジオグラフィック日本版 2021 年 9 月号（8 月 30 日発売）で、タリバンが勢力を拡大するアフガニスタンを取材した特集「暗雲のアフガニスタン」を掲載します。



アフガニスタンは山と砂漠に囲まれた内陸国だ。その歴史は、1747 年にパシュトゥン人指導者アハマド・シャー・ドゥラーニが敵対していた各部族を統合しアフガン帝国を設立して以来、周囲の敵対する国々との戦争と外交によって形作られてきた。

19 世紀後半には、ロシアと英国がアフガニスタンの支配権を巡って争いを繰り広げた。この地理的、政治的な攻防は、「グレート・ゲーム」と呼ばれる。英国はロシアの進出を阻止するべく 3 度にわたる戦争を戦ったが、最終的に 1919 年に撤退した。これにより、アフガニスタンは独立国家となった。



王政(1747~1973年)

アフガニスタンを統治した君主のほとんどがバシュトゥン人。現在のタリバンも同じ民族出身だ。

英国との戦争

英国はインド支配を維持し、ロシアの進出を阻止するため、3度アフガニスタンの併合を試みる。

第1次
アングロ・
アフガン戦争
(1839-1842)

第2次
アングロ・
アフガン戦争
(1878-1880)

旧ソ連との戦争

支持が下落した共産主義政権を擁護するため旧ソ連が侵攻。イスラム系の反政府ゲリラが台頭する。

第3次
アングロ・
アフガン戦争
(1919)

クーデターによる
王政廃止
(1973)

米国主導の侵攻

旧ソ連の占領
(1979-1989)

それから60年後の1979年12月27日には、ソ連軍がアフガニスタンに侵攻した。当時のアフガニスタンは共産政権の支配下にあったが、各地で政府に対する抵抗運動が活発化しており、政権擁護のための軍事介入だった。この紛争は10年間続き、アフガン人100万人とソ連側の少なくとも1万5000人が犠牲になった。

2001年、9月11日に米国のニューヨークとワシントンD.C.が攻撃されてから3週間後、米国と英国がアフガニスタンへの空爆とミサイルによる攻撃を開始した。ウサマ・ビンラディンの訓練キャンプと、それをかくまうタリバンを狙ったものだった。

【参考ギャラリー】 写真で見るアフガニスタン苦難の歴史、英ソ米が入れ替わり介入 写真25点（クリックでギャラリーページへ）



2021年8月15日、アシュラフ・ガニ大統領の国外脱出からわずか数時間後に、大統領府を占拠したタリバンの戦闘員たち。現在、アフガニスタンの政権はタリバンが掌握している。（PHOTOGRAPH BY ZABI KARIMI, AP）

[\[画像のクリックで別ページへ\]](#)

このような歴史を考えれば、他国による侵攻や支配への抵抗がアフガニスタンという国のアイデンティティーの一部になっていることも不思議ではない。

アフガニスタン最大の部族はパシュトゥン人だが、1893年に英国が画定したデュアランド線という境界線の関係で、パキスタンにはその倍ほどのパシュトゥン人が住んでいる。タリバンの大多数もパシュトゥン人だ。タリバンは米国の侵攻後にパキスタンで再編成され、パキスタンの治安部隊の一部はタリバンを支援した。



デュアランド線は、英国が1893年に強制的に設けた境界線。アフガニスタンの主要民族であるパシュトゥン人の半数が英国の統治下に入り、現在のパキスタンとなった。

Christine Fellenz, Matthew W. Chwastyk, NGM Staff, Lawson Parker.

[画像のクリックで拡大表示]

文 = MÓNICA SERRANO、CHRISTINE FELLEENZ、LAWSON PARKER / 訳 = 鈴木和博